

江戸の心につれる 浮世絵展 (2013年3月上旬)

平成25年3月上旬、東京都中央区の小学校にて、会員所蔵の浮世絵による展覧会が開催されました。当日は、学校公開・授業参観日でもあったため、多くの児童・保護者・地域の方々にご来場いただきました。

展覧会では、豊国の役者東海道、美人東海道、国芳、広重の「日本橋」の展示をはじめ、日本橋界限などの風俗画、役者絵、そして絢爛豪華な源氏絵の3枚綴りなど、二十数点の浮世絵が展示され、手にとって浮世絵を見るコーナーや、「ジャポニスム」について解説したコーナーも設けられました。学校周辺は江戸文化が栄えた町であり、浮世絵がつくられていた地域ということを知り、児童たちも興味深く鑑賞していました。

展覧会後の児童の感想文からは、日本人のきめ細やかさや表情の豊かさ、そして手先の器用さを感じ取り、江戸時代の人々が自由で豊かであったと感じていたり、浮世絵がポスターやガイドブック、記念写真、新聞のようなメディアを一つで兼ねておりエコだったとユニークな観点で捉えたり、何回見ても飽きないと書かれた感想文もあって、皆一様に大変喜んでくれた様子うかがえました。中には、ゴッホ達印象派の芸術家も浮世絵をもっていて影響を受けたということを知り、日本に自信を持つことができましたという感想文もあり、児童達には大変意義深い展覧会になったと思われまます。

あらためまして、このような機会を設けて頂いた学校関係者の皆様に感謝致しますとともに、ご協力いただいた会員の皆様にも、この場をお借りしてお礼申し上げます。

